

Touch

タッチ

第46号
編集・発行

春日部市青少年育成推進員協議会
広報部会(幸松・豊野地区)
事務局

春日部市子ども未来部こども政策課内

TEL 048-736-1111

内線 2573・2574

地域と家庭

学校の架け橋となつて



夏の登校風景

熱中症対策として、春日部でなじみのある「麦わら帽子」を着用した子ども達の姿が見られました。暑い中少しでも楽しく、さわやかに登校できるようにという牛島小学校独自の取り組みです。どこか懐かしさを感じられる光景にほっこりしました。

春日部市青少年育成推進員協議会とは

青少年を地域で守り育てる！を合言葉に、声かけ・あいさつ運動や有害環境の浄化活動などを通して、地域間の連携を深めることを目的に活動している「地域の青少年育成ボランティア」です。

守りたい良い環境を 子どもたちのために!!

<アンケート概要>

○対象者
市内小・中・義務教育学校
34校の小3・小5・中2
(各校各学年1クラスずつ)

○回答数
小3 計645人
小5 計657人
中2 計395人



みんなのきもち きいてみました!



マスクして
おでかけしたあと
てをあらう
(幸松小)

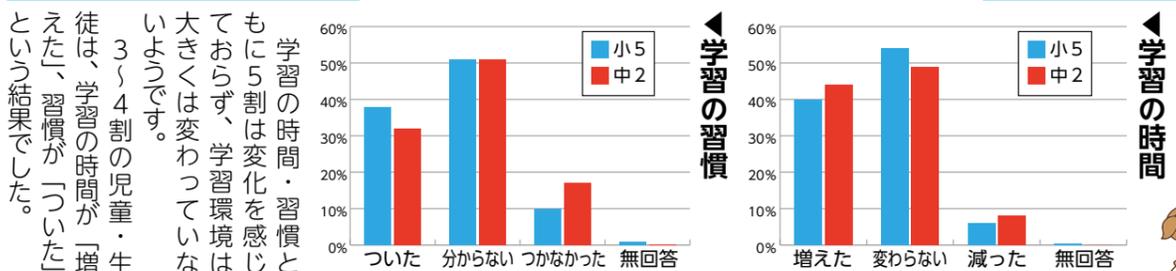
たのしいな
みんなそろって
おにごっこ
(武里小)

だいじょうぶ
あかるいみらい
まっている
(豊春小)

せんせいと
みんなにあえて
うれしいな
(内牧小)

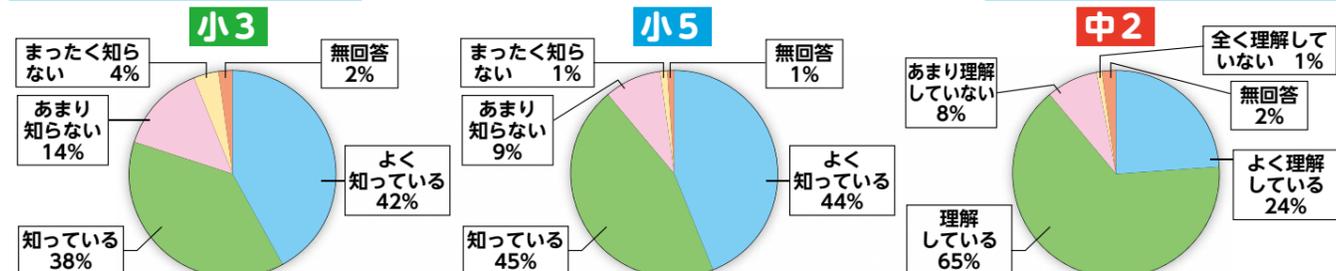
コロナとの
たたかひだけ
あそびたい
(船壁小)

コロナが流行する前と後で、家庭学習や自主学習に変化はありましたか?



学習の時間・習慣とも5割は変化を感じておらず、学習環境は大きくは変わっていないようです。
3〜4割の児童・生徒は、学習の時間が「増えた」、習慣が「ついた」という結果でした。

新型コロナウイルスの怖さについて、知っていますか・理解していますか?



コロナで学校生活が変化しましたが、よかったことや気づいたことはありますか?



学校へ行って、友達と会って、もっと話したいという意見が多く見られる中で、今までは違う生活の一面に気づく子どもも多くいました。「今までの生活がいかに楽だったかわかった」という意見もあり、印象的でした。

小3

- ・もっとみんなと話したい。
- ・楽器が吹けない。
- ・みんなのために先生が色々やってくれた。
- ・給食で話さないから全部食べられる。
- ・土曜日に学校へ行かなければならぬ。
- ・命の大切さ。
- ・みんなと会えてうれしい。
- ・学校がないと「こんなにさみしい。」「学校へ行きたい。」

うれしいな
家族そろって
おうち時間
(榎川小)

お母さん
おいしいごはん
ありがとう
(豊野小)

かわったな
日本全国
新生活
(備後小)

やりたいな
ドッジボールを
友だちと
(八木崎小)

べん強は
みんなやると
たのしいな
(牛島小)

つまらない
ずっと家で
じしゅくちゅう
(緑小)

小3・小5の児童は、8割がコロナの怖さについて知っているようです。中2の生徒も、9割が怖さを理解しているようです。ただ、コロナは未知な部分が多いためか、「よく理解している」と回答した生徒は2割程度でした。

この時期だからこそ、子ども達も色々考える時間が増えてきたのだと思います。自分の事、友達の事、勉強の事、学校の事、先生の事、家の事など。大人が考えている以上に子ども達は成長していました。

小5

- ・土曜日登校になり、ひまな時間が減った。
- ・少し収まるとマスクを外す人がいる。
- ・友達と直接会わずに通信で遊ぶようになった。
- ・友達の大切さ。
- ・お手伝いをして家事の大変さがわかった。
- ・家にずっといることが苦痛とわかった。
- ・知らない間に密になっているのでは?
- ・学校に行けるのが当たり前ではないと気づいた。
- ・みんなと会えてうれしかった。
- ・先生たちがコロナで大変な中でも勉強を教えてください。
- ・自分で学習のテーマを決めることができた。
- ・思いっきり外遊びや体育をやりたい。

中2

- ・当たり前の事が当たり前でないことがわかり、感謝する気持ちを持てるようになった。
- ・色々な行事がなくなって悲しい。
- ・土曜日が学校なので楽しいことがなくなった。
- ・土曜日学校へ行ける。授業がどんどん進んでわからないままになってしまふ。
- ・先生が机などを消毒してくれていた。先生に感謝。家族と話す時間が増えて仲よくなった。
- ・自分の時間や趣味の時間が増えた。
- ・医療従事者の方が心配。コロナに似た病状だからとコロナ差別が起こらないか。
- ・人との心と体の距離が遠くなった。
- ・手洗いをしっかりする人が増え、密にならないように取り組んでいる。

生活が
ぜんぜんちがう
むずかしい
(川辺小)

回しても
ニュースはコロナの
事はかり
(上沖小)

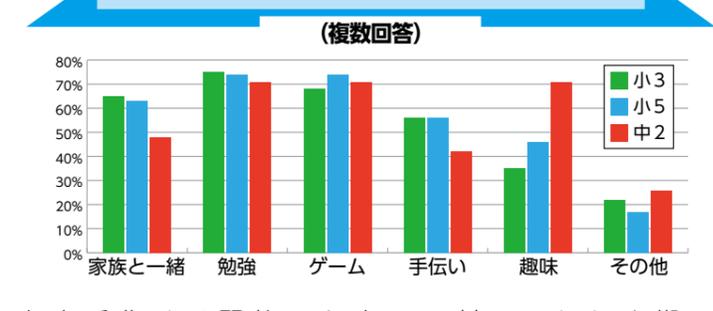
校での
遊具でみんなと
遊びたい
(正善小)

ありがたい
つくえにしろし
きよりをとる
(立野小)

休校中
みんなのことが
きになった
(小淵小)

家族と一緒に
勉強
ゲーム
手伝い
趣味
その他

夏休みの間は、何をして過ごしましたか?



令和2年度は、コロナ禍で期間が短くなったり、外出がままならなかったりと、過ごし方がいつもと違う夏休みでした。
自宅で一人できる「勉強」「ゲーム」は、各学年とも高い割合でした。
学年別の違いが表れたのは、「家族と一緒に」「手伝い」は小3・小5が多く、「趣味」は中2が最も多いという点でした。
「その他」の内容は、運動・旅行・外出・プール・テレビ・習い事などが共通して多くありました。学年別では、小3は家庭内でのお菓子やマスク作り・外遊び、小5は料理・手芸・塾・友達と遊ぶ・スマホ、中2は部活・ネットゲームがありました。

コロナだよ
しっかりよほう
マスクもね
(中野小)

さんねんだ
きよりをあけなきや
だめなのが
(宮川小)

コロナだが
かかった人は
わるくない
(藤塚小)

はなれよう
だいじなひとを
まもるため
(南桜井小)

かなしいな
近づけなくて
さびしいな
(江戸川中)

あーはやく
あそびたいな
友だちと
(武里南小)

ひるごはん
はんのみんで
食べたいな
(武里西小)

表彰

○令和2年度「埼玉・教育ふれあい賞」を受賞しました。
 埼玉県では、教育に対する県民の理解と関心を深める機会とするため、11月1日を「彩の国教育の日」としており、その一環として日々の教育活動に取り組み、著しい成果を上げている学校・団体を表彰しています。

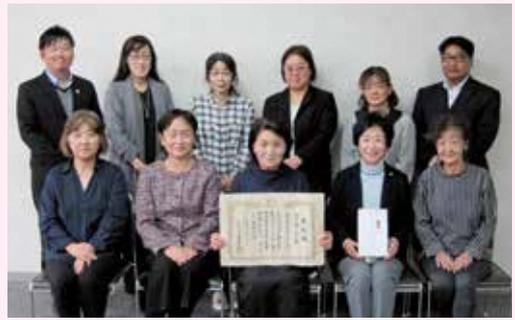
その中で、「学校・家庭・地域が一体となって、児童生徒の健やかな育成に著しい成果を上げている団体」として受賞しました。

○地域福祉への貢献及び街頭募金活動の協力について表彰されました。

春日部市社会福祉協議会より、青少年育成推進員として10年以上活動した8名、5年以上10年未満活動した14名の計22名が地域福祉に貢献していることから、福祉行政協力員として表彰されました。

また、赤い羽根共同募金活動に10年以上協力していることから、社会福祉活動協助団体としても表彰されました。
 昭和63年団体設立以降、青少年育成推進員として活動してくださった方々、また活動にご理解、ご協力くださる学校、地域、関係団体の皆様あつての受賞です。今後も、地域の子どもの達のことを思う皆

様とともに、活動を継続してまいります。



▲埼玉・教育ふれあい賞の受賞

学校訪問活動

10月から12月にかけて、市内の小・中学校19校への訪問を行いました。

今年度はコロナ禍での訪問のため、行事への参加はできませんでしたが、校長先生、各学年の先生、養護の先生等から色々な話を伺うことができました。

学校規模、立地条件、児童生徒数の違い等あるなかで、各校それぞれの対策、子ども達への心のケア、環境整備、そして家庭への情報発信と様々な工夫を取り組んでいることに感心しました。

また、各校とも予定していた行事が充分に実施できなかつたことをとても残念に思っていました。「学校には来年その学年は一度だけだから、今年だからこそその思い出を作つてあげたい。」という先生の言葉が心に残りました。学校訪問へのご協力に心より感謝いたします。



▲豊野地区学校訪問の様子



▲幸松地区学校訪問の様子

ったことをとても残念に思っていました。「学校には来年その学年は一度だけだから、今年だからこそその思い出を作つてあげたい。」という先生の言葉が心に残りました。学校訪問へのご協力に心より感謝いたします。

活動報告

3月	2・14	1・28	12・13	11・6	10・23	10月7	10月3	9・3	6・26	5・14
家庭の日啓発活動	シヨール(中止)	連携活動事業「親子サイエンス	教育講演会(オンライン開催)	青少年育成春日部市民会議読み聞かせ公演会	代表推進員連絡会議	青少年育成春日部市民会議家庭	学校訪問活動	青少年育成春日部市民会議家庭の日ポスター選考会	教育部会	令和2年度総会(書面)

編集後記

今年度は「新型コロナウイルス」により、社会・学校・家庭生活全般が変化の年となつてしまいました。その中で子ども達は何を感じ、何を求めているのかを知りたく、10月に市内全小中学校を対象にアンケートを依頼し、小3・小5・中2の各学年1クラスずつ実施していただきました。

アンケートの回答と小3が書いた三行詩から、心の推移、見つけられたもの、失いそうで不安に感じている事など、様々な事を知ることができました。「本当は

学校が大好きだったことがわかつた」「友達と会えること、話せることが大切だと知つた」など、当たり前のことができなくなつた淋しさが多く寄せられました。そして皆、たくさんのお話を学んでくれた様子も伝わってきました。

アンケートに協力してくださった児童・生徒の皆さんはもちろん、先生方に深く心より感謝申し上げます。これからも『地域と家庭と学校の架け橋』を軸としての活動を続けてまいります。ご協力ありがとうございます。